

ISOUKAI x SOCIAL EVENT

KENDO



剣道 プログラム



■第29回日本医学会総会 2015 関西■
ソシアルイベント



第29回日本医学会総会 2015 関西の開催にあたり心からお慶び申し上げ、皆様のご来場を歓迎いたします。京都では24年ぶりの開催になります。実に多くの京都府民が心待ちにしております。

今、私たちの時代は少子高齢化の時代、だれもが高齢となり、病気になります。医学・医療のお世話になることは避けて通れない時代です。それだけにその進歩は、私たちにとって大きな希望があります。皆様にお越しいただき、新しい医学・医療の大きな前進の灯りを京都から照らしていただきたいと思っております。

特に京都、大阪、神戸は昨年国際戦略総合特区に指定されました。再生医療もいよいよ本格的に動き始めております。そのような大きな進歩を京都から巻き起こしていただきたいと思います。

また、開催時期の4月は、京都の桜も美しい時期です。ユネスコ無形文化遺産に指定されました“和食”もぜひ味わっていただき、春の京都を満喫していただきたいと思っております。皆様にお会いでいる日を楽しみにしております。

どうか京都をよろしくお願い申し上げます。

京都府知事 山田 啓二

皆さんこんにちは。

第29回日本医学会総会 2015 関西が京都、関西で開催されます。コンセプトを拝見して、どちらかと言うと今まで医学関係者の会であったのを、治療を受ける患者や開かれた市民の側に立ってこれから介護の問題、予防の問題など様々な課題を開かれた場で議論していくこうと心強く感じております。

京都は歴史と伝統の街であります。同時に先端医学の街、学術研究の街でもあります。また、宗教都市、精神文化の拠点都市であります。最近、アメリカの最も影響力のある旅行雑誌「トラベルアンド レジャー」でも「世界で最も憧れの都市」のNo. 1であると評価をいただきました。料理も美味しく、“百薬の長”と呼ばれるお酒も京都は有名でございます。開かれた場で熱心な議論を深めていただくと同時に京都ならではの歴史を、文化を、また市民力を感じていただきたいと思います。

桜のきれいな感動的な時期、皆さんにご満足していただきたいと思います。

京都市長 門川 大作



『ソシアルイベントへの参加を』

日本医学会総会は、医学関係者と社会の人々の接点の一つとして、その役割はますます重要になっています。今回も展示、プレイベントなど、様々な企画を通して、多くの人に医学・医療の現状を知つて頂く機会としたいと考えて、計画を立てました。医学会総会はまた、4年に1回めぐつてくる医療関係者を中心とした多くの人々の親睦の場でもあります。今回の医学会総会でも井端泰彦委員長のもと、豊富な内容のソシアルイベントが、文化、スポーツの両面で計画されました。時は春たけなわの古都京都、学会の合間にこのソシアルイベントに参加して、日ごろの疲れをいやし、大いに浩然の気を養つて頂きたいと思います。ぜひ誘い合わせて多くの人が参加され、この貴重な機会を楽しんでいただきたいと願っています。

第29回日本医学会総会 2015 関西 会頭 井村 裕夫

4年に一度開催される医学会総会では「ソシアルイベント」交歓行事が毎回開催されます。団体・個人のスポーツから囲碁・将棋・美術・音楽など、同好の士が集まり競技や発表などを行います。今総会では、「健康社会を共に生きるきずなの構築」というテーマに沿つて、ソシアルイベントに新たな位置づけと役割を設けました。

これからは医療・介護・福祉を一体とした視点で考えとりくむことが、健康な個人や健康な社会の基礎になるでしょう。スポーツや趣味は「ココロとカラダの健やかさ」に少なからず役立ちます。また、家族や仲間といったコミュニケーションの活性化にも寄与します。この見地から予防医学や先制医療にもつながる健康への活動として位置づけました。

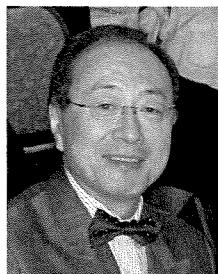
また、「開かれた医学会総会」として、医師や医療関係者のほか家族や仲間、一般市民の方々が参加できる企画も、今回いくつかの種目で用意されています。

ソシアルイベントを通じて、スポーツの安全な取り組みについてのレクチャーや実習を行ったり、日常生活での健康づくりを話し合ったりすることで、各専門分野の医師の方々が参加者の皆さんと交流できるのは意義あることだと考えています。15種目の世話人の先生方が、それぞれ工夫し準備している今回の「ソシアルイベント」に、ぜひご参加とご協力を願いいたします。

ソシアルイベント委員長 井端 泰彦



ご挨拶



第50回 全日本医師剣道大会（京都大会）

会長 吉村 了勇
(京都府立医科大学大学院移植再生外科学教授)

皆様におかれましてはますますのご清祥の事、お慶び申し上げます。

第50回大会を、4月の桜満開の時期に京都市で開催する事が出来、御高配賜りました関係者の皆様に心からお礼申し上げます。京都での大会は、第5回（昭和45年）高岡謙次会長、第10回（昭和50年）会長不詳、第21回（昭和61年）根本浩介会長、第26回（平成3年）横関誠夫会長による開催について24年振りに5回目となります。偶然にも第50回という節目の記念大会が京都でおこなわれます事を重ね重ね感謝申し上げます。

今大会では、最近定番になりました地区別対抗戦を引き継いで行いますと共に、47回大会に続いて個人戦を新たに年代別に分けて復活し、日頃の稽古の成果を存分に出て頂ける様に企画しております。2日間とも高名な8段の方々を元立ちにお願いし、また合同稽古にて皆様相互の稽古もお楽しみ下さい。

できれば剣道の総本山でありました旧武徳殿で先生方に稽古をお願いできればと考えておりますが150名以上の参加が見込まれとても入り切れず、またコートも最低4面要ります事から同じ敷地内にあります武道センターにしております。

有意義で京都らしい大会となりますよう、そして先生方の記憶に残る楽しい大会になります様、心から願っております。宜しくお願い申し上げます。



「第50回大会を迎えて」



全日本医師剣道連盟
会長 鏡山 博行

春うららかな京都にて、全日本医師剣道大会が、第50回という大きな節目を迎えることとなりました。大会を主管していただく吉村了勇先生はじめ、関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

昨年の長崎大会で、伊藤元明先生の後を受け、本連盟の会長を務めることになりました。会長として自分の力不足は百も承知いたしておりますが、皆様方のご協力を賜りながら大役を果たしてまいりたく存じます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

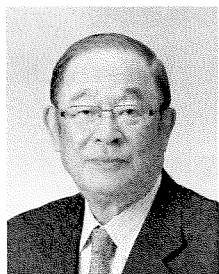
全日本医師連盟は昭和35年に結成され、約半世紀にわたり、剣道を愛する医師、医学者の全国的な交流の場として歩んでまいりました。昭和34年の医学会総会の折に第1回剣道大会が開催され、以後4年毎に行われる医学会総会に合わせて行われましたが、昭和44年からは毎年行われるようになり、今回が第50回となった次第です。

剣道には「打って反省、打たれて感謝」という言葉がありますが、本連盟におきましても、医剣一如の精神のもと、心を攻め心に響く打突を求め合うことを目指してきたと理解しております。今後とも、この精神を継承するとともに、会員の皆様方と共に、本連盟の社会的認知度をさらに高めていきたいと考えております。特に、「生涯剣道」と言われる「年齢を超えて続けることのできる剣道」において、医学的な見地から、さらなる安全性の向上や事故の防止についても注力し、社会貢献への道も模索してまいりたく存じます。皆様のご理解とお力添えのほど衷心よりお願ひいたします。

最後になりますが、この記念すべき50回大会における会員の皆様のご健闘を心からお祈りいたします。



祝　　辞



全日本剣道連盟
会長　張　富士夫

第50回全日本医師剣道大会が、京都武道センターにおいて開催されるにあたり、
お祝いの言葉を申し上げます。

大会は、昭和34年より日本医学会総会の交歓行事として4年に1度行われてお
りましたが、昭和43年より毎年開催されております。東日本大震災により大会の中止を余儀なくされた
年もありましたが、今回で節目となる50回目を迎える歴史ある大会であります。全日本医師剣道連
盟の方々が、剣道を通じて心身を鍛磨しつつ、日常の活動に成果を挙げられることは、その仕事の社
会における重要性からも誠に有り難いことと感じます。皆様の日常の活動は、剣道の普及と評価を高
めることからも、社会的に多大な影響を与えてています。今後も、文武両道にわたるご精進をお願いい
たすものであります。

また、かねてより剣道界の各行事において、専門家として、講習会の講師、安全面への啓発活動、ドー
ピング防止活動、大会・審査会などの行事における緊急医療の担当医としてのご尽力をいただくとと
もに、各専門委員会での審議、助言など多方面に亘り、ご指導とご協力を賜り深くお礼申し上げる次
第です。

さらに、全日本医師剣道連盟・トレーニングコーチ・栄養管理士の皆様のご尽力により、昨年は「剣
道医学Q & A」「救急ハンドブック」の第3版を刊行し、「剣士のためのアンチ・ドーピングマニュアル」と共に、剣道愛好者の健康と安全性を高め、剣道普及と生涯剣道のための得難い資料となっ
ております。

最後に、本日参加された、医師の剣道愛好者の方々がお互いの交流親睦を深め「医剣不岐」「医剣
一如」の理念を貫き、剣道の修練を続けておられることに敬意を表します。本大会が、参加者各位の
日常の修練の成果を発揮される場として、今後も意義ある大会として発展して行かれることを祈念し、
御挨拶といたします。



祝　　辞



京都府剣道連盟 会長
衆議院議員 伊吹 文明

全国より150名を超える医師代表選手、関係者の皆さまを京都にお迎えし、全日本医学会総会と合せて第50回全日本医師剣道大会が開催され誠におめでとうございます。日本文化と武道の中心のまち・京都では、5度目の開催と伺っています。大会のご成功を願っています。また、本大会の企画・運営に当たられた役員・関係者のご尽力に改めて敬意を表します。

各種の剣道大会では、医師の先生方にスポーツドクターとして救護のため、ボランティアをお願いしており、関係者一同感謝をしています。今日は先生方が主役の大会です。申すまでもなく礼をもって始まり、礼をもって終わると言われる剣道の「こころ」は、日本の伝統武道に脈々と流れる日本人の心根、よき国民性の原点でしょう。大会に参加される医師剣士の先生方には、忙しい診療の合間をぬって鍛えてこられた成果を充分に発揮され、礼節を重んじた素晴らしい試合を期待しています。患者さんに接するのと同様に、お互いの心の交流を深め、友情の輪を広げられることを願っています。

結びに大会のご成功と全日本医師剣道連盟の益々のご発展、ご参会の皆さまのご健勝を祈念し、お祝いの言葉とします。



「合気道」合気の術理ー私案

京都府合気道連盟理事長
合気道鳴鶴会師範 前川 信雄

春の美しい京都の地で第50回全日本医師剣道連盟大会が開催されますことに心よりお慶び申し上げます。此の度、当大会にて合気道演武を依頼されましたことは身に余る光栄に存じます。

この合気武術の歴史は古いようですがはっきりしません。植芝盛平先生は大正の初めごろ大東流合氣柔術の武田惣角先生から学ばれたと言われています。合気のわざはこの時点から世に出たと言えるかもしれません。私も合気武術を多くの師から学び、すでに50年という月日が経ちますが、依然として合気を言葉で説明することは困難です。

開祖植芝盛平先生の遺墨のなかで一番多く書かれているのは、「気のみわざ 赤白玉やますみ玉 合気のみちは小戸の神技」と言われています。道歌の中には技の奥秘と道の究極が明示されているはずです。

合気は“押す動作”と“引く動作”を同時にを行うことから相手の意識をある一点に集中させる技術という考え方です。即ち“押して引く”“引いて押す”、一見矛盾した動作かもしれませんのが、この動作から相手に矛盾を認識さすことが非常に重要なことがあります。

意識の集中はその者の意識の水準を下げさせ、変性意識状態に導くことになります。その時、同時に眼（視線）を取ることから認知的葛藤を生じさせるのではないかと推測しています。定かではありませんが「己を相手にくれてやる」動作から相手の意識を誘い、矛盾の動作を認識さすことは相手を制圧するのにかなり効果的であり実際的な手法かと思われます。このような二つの情報が干渉しあつて、意識をとられるとその者は混乱し、硬直状態になりパニックを起こすと考えられます。

しかし合気には解説不可能な多くの要素がまだまだあります。

合気修業の道半ばというところですが、今回は普段やっております稽古を可能な限り合気という範疇でお見せしたいと思います。

以上の解説を参考にしていただき実技を観察していただければ幸いです。

この合気の「術・理」が剣の修練の一助になることを心から願っております。



第50回全日本医師剣道大会開催にあたって

全日本医師剣道大会の歴史は古く、第1回大会は昭和34年、東京での第15回医学会総会に合わせて始まりました。戦後しばらくの間、GHQの武道禁止令の煽りを受けて、大会はもちろん、稽古も公にはできない状態でしたが、そんな中、各地で稽古を続けてきた医師剣道の先輩方が医学会総会で顔を合わせ、全国大会を開こうということで始まりました。

第1回から第3回までは4年ごとの医学会総会に合わせる形で行われてきましたが、医師剣士の4年間が待ちきれない思いがつたり、昭和44年からは、毎年各地での持ち回り開催となり、医学会総会のある年は、その主催都市で記念大会を開催することになりました。こうして毎年順調に続いて来た大会でしたが、H23年3月11日に始まる東日本大震災のため、東京での第28回医学会総会が中止となり、同時に第46回全日本医師剣道東京大会も直前で中止を余儀なくされ、幻の大会となりました。大会準備に尽力された東京の先生方の無念に思いを馳せながら、今大会の成功を期したいと思います。

大会には、北は北海道から南は沖縄まで、診療、研究に多忙な中、日々稽古を積んだ約150名の医師剣士が参加します。

4月11日から2日間の日程で、昼は多彩な演武、各種の試合、記念講演、合同稽古、夜は京都らしいアトラクションを交えた懇親会など、盛りだくさんの内容のプログラムで、交流と親交を深め、皆様に「京のしば漬け」ならぬ「京都で剣道漬け」になっていただく予定です。どうかよろしくお願ひします。

(第50回全日本医師剣道大会実行委員会一同)



大会日程

4月11日（土）

午後0時～ 受付
1時～ 開会式
日本剣道形 合気道演武 八段模範試合
2時～ 審査形式試合
4時～ 八段元立ち稽古 自由稽古
5時半～ 幹事会
7時～ 懇親会
9時半～ 二次会

4月12日（日）

午前8時開場 朝稽古
8時30分～審判会議
8時50分 集合写真
9時～ 地域対抗団体戦
12時 昼食 記念講演 宮坂昌之先生
午後1時～ 年代別個人戦
3時半～ 表彰式 閉会式
～4時45分 自由稽古

開会式次第

- 1) 開会宣言
- 2) 国歌斉唱
- 3) 物故者への黙祷
- 4) 前会長への感謝状贈呈
- 5) 大会会長挨拶
- 6) 御祝辞
- 7) 審判長説示

閉会式次第

- 1) 成績発表 表彰
- 2) 審判長講評
- 3) 次期会長挨拶
- 4) 大会副会長閉会挨拶

公開演武

日本剣道形

打太刀 錬士7段 大菅克知
仕太刀 錬士7段 石井靖隆

合気道演武

合気道鳴鶴会 前川信雄代表 他

模範試合（立会い 田中信行範士）

高橋英明 教士8段 × 八木克潔 教士8段
木下俊一 教士8段 × 藤元 巍 教士8段
樋崎武司 範士8段 × 湯村正仁 範士8段



大会役員

大 会 会 長 吉村了勇
大 会 副 会 長 松原基夫
大 会 実 行 委 員 長 西本知二
大 会 実 行 委 員 京滋医師剣道連盟会員
司 会 松下真奈
事 務 局 宮澤くみ子他
大 会 補 助 役 員 京都府立医科大学剣道部員

審査役員

奥島快男 田中信行 西出功 椎崎武司 藤元巖 木下俊一 八木克潔 高橋英明

審判役員

審 判 長 田中信行
審 判 主 任 藤元巖 木下俊一 八木克潔 高橋英明
審 判 員 京都府剣道連盟の皆様

試合方法

1 審査形式試合

試合時間 1分間 2試合。
第1試合場 6、7段
第2試合場 2～4段、5段
相手を替えて2回連続で立ち合う。
各カテゴリーの最初と最後の試合は1.5分で行う。

2 地域対抗団体戦

4試合場でリーグ戦を戦う。
オーダーは年齢順に先鋒から大将まで並べる。
試合時間 2分3本勝負。
同本数の時は合計年齢の高いチームの勝ちとする。
各ブロックの1位チームにて決勝トーナメントを行う。
欠場者が出ていた場合の重複出場、飛び入り出場は認めない。
大会本部の判断で欠場者に補充要員を充てる場合がある。

3 年代別個人戦

選手を4年代に分け、4試合場でトーナメントを戦う。
試合は3分3本勝負、延長2分で勝負が決しないときは年長者の勝ちとする。

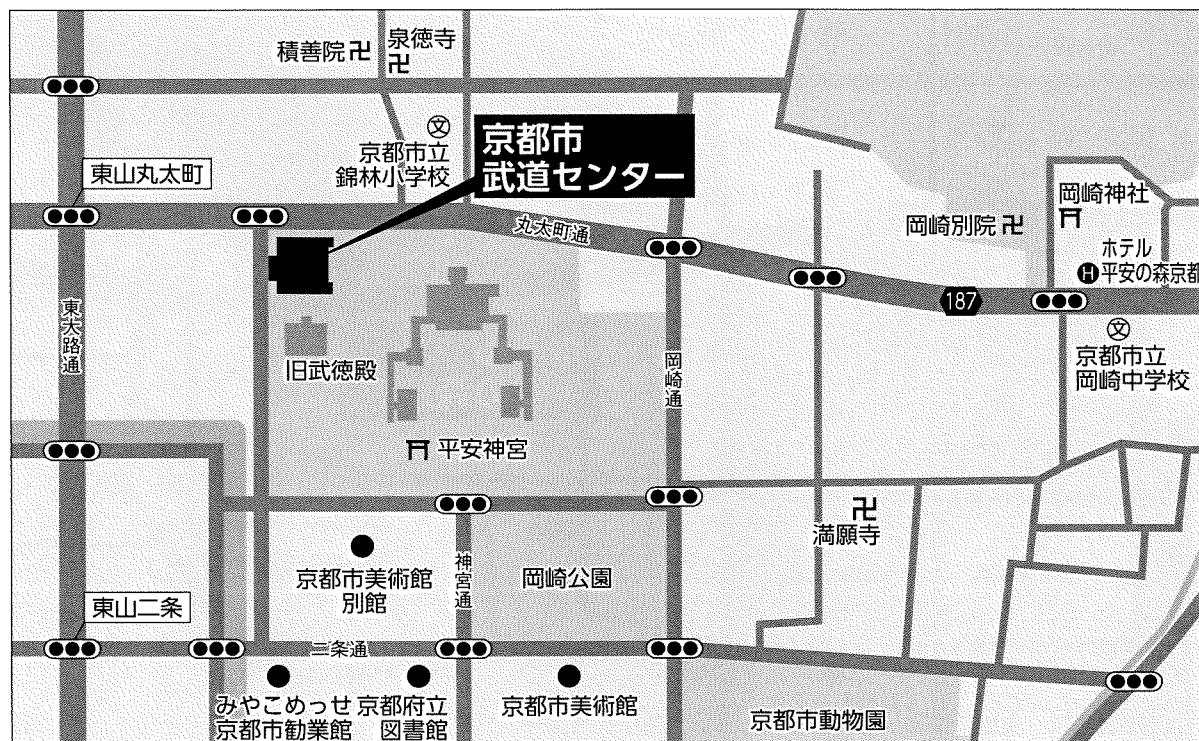


会場案内

武道センター

〒606-8323 京都府京都市左京区聖護院円頓美町46-2

電話：075-751-1255



アクセス

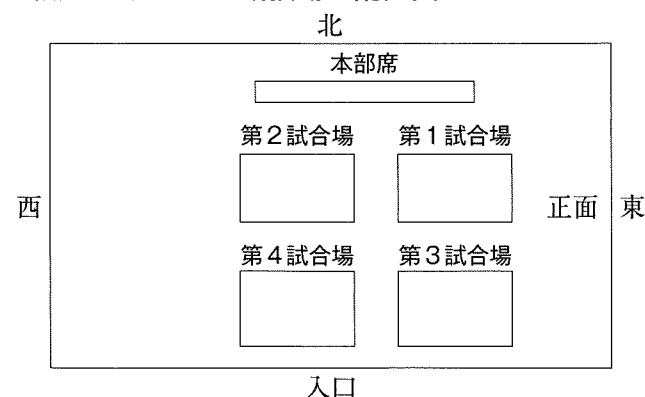
電車でお越しの場合

- ・京阪鴨東線「神宮丸太町駅」下車 徒歩10分
- ・京都市地下鉄東西線「東山駅」下車 徒歩11分
- ・京都市地下鉄東西線「三条京阪駅」下車 徒歩13分

バスでお越しの場合

- ・京都市営バス熊野神社前下車 徒歩1分
- ・京都会館美術館前下車 徒歩3分

武道センター 主競技場 配置図





懇親会会場案内

平安の森京都

〒606-8332 京都府京都市左京区岡崎東天王町51

TEL : 075-761-3130





審査形式試合組み合わせ

第一試合場 (6段、7段)

浦出 剛史	(兵庫)	33	六段	久保田 暢人	(兵庫)	39	六段
伊藤 伸	(東京)	40	六段	越智 小枝	(福島)	40	六段
増田 健太郎	(愛知)	41	六段	吉田 純	(福岡)	43	六段
武内 章英	(京都)	47	六段	鬼塚 正成	(長崎)	49	六段
秋山 知子	(神奈川)	50	六段	和田 哲成	(兵庫)	51	六段
阿部 正	(東京)	52	六段	甲斐 豊	(熊本)	53	六段
新藤 寛	(千葉)	54	六段	佐藤 幸一郎	(宮城)	56	六段
佐久間 洋	(埼玉)	58	六段	永山 盛隆	(沖縄)	58	六段
大畠 敏保	(神奈川)	60	六段	福重 哲志	(福岡)	60	六段
諸木 浩一	(鹿児島)	60	六段	吉村 了勇	(京都)	62	六段
佐野 順次郎	(東京)	65	六段	三好 博文	(兵庫)	65	六段

大岩 真	(茨城)	50	七段	石井 靖隆	(京都)	52	七段
石濱 英暢	(香川)	53	七段	倉都 滋之	(大阪)	54	七段
福島 孝幸	(千葉)	54	七段	弥富 俊太郎	(東京)	54	七段
大菅 克知	(京都)	56	七段	柴田 和弥	(大阪)	57	七段
中島 洋介	(東京)	57	七段	荻原 幸彦	(東京)	58	七段
笠松 紀雄	(静岡)	59	七段	菅 義行	(岩手)	59	七段
堀江 貴	(鳥取)	59	七段	奥島 憲彦	(沖縄)	60	七段
倉田 博幸	(大阪)	60	七段	池澤 清豪	(北海道)	61	七段
朝日 茂樹	(東京)	62	七段	清水 浩二	(神奈川)	62	七段
篠原 義智	(東京)	63	七段	枝重 恭一	(高知)	65	七段
谷木 利勝	(高知)	66	七段	西本 孝	(大阪)	66	七段
日高 久光	(福岡)	66	七段	萬木 信人	(長崎)	66	七段
浦出 雅裕	(兵庫)	67	七段	宮坂 信之	(東京)	67	七段
宮坂 昌之	(大阪)	67	七段	梶島 悅蔵	(茨城)	68	七段
守 正英	(千葉)	72	七段	伊藤 保憲	(香川)	73	七段
稻村 征夫	(東京)	73	七段	長野 拓三	(大阪)	73	七段
濱 弘毅	(東京)	73	七段	山本 晋一郎	(岡山)	73	七段
鏡山 博行	(大阪)	79	七段	佐藤 義典	(兵庫)	79	七段
飯塚 幹夫	(鳥取)	87	七段	古賀 行雄	(佐賀)	88	七段



第二試合場 (2段～4段、5段)

宮崎 敦史	(宮城)	49	二段	石橋 賢太郎	(宮城)	50	二段
池 真実	(東京)	27	三段	中村 慶	(京都)	28	三段
栗林 正明	(京都)	39	三段	今川 由佳	(大阪)	49	三段
池永 剛久	(兵庫)	50	三段	谷上 博信	(大阪)	54	三段
兵藤 透	(神奈川)	56	三段	片山 寛次	(福井)	61	三段
松井 大輔	(京都)	33	四段	今村 拓也	(京都)	36	四段
名嘉 圭代	(沖縄)	42	四段	阿保 貴章	(長崎)	43	四段
森廣 雅人	(長野)	44	四段	志村 信一郎	(東京)	45	四段
坂東 道哉	(東京)	46	四段	清水 智治	(滋賀)	47	四段
中屋敷 典久	(愛知)	47	四段	古本 敬明	(千葉)	48	四段
榎間 勝利	(愛知)	50	四段	小宮 靖弘	(滋賀)	52	四段
宮下 薫	(神奈川)	66	四段	金澤 義彦	(宮城)	67	四段
平塚 将太郎	(京都)	26	五段	石山 雄一	(神奈川)	30	五段
根本 隆章	(神奈川)	34	五段	根来 宏光	(京都)	39	五段
武石 浩歎	(東京)	42	五段	紙屋 康之	(鹿児島)	43	五段
川上 格	(岩手)	44	五段	石川 原	(滋賀)	45	五段
宮崎 真和	(千葉)	46	五段	小林 之直	(沖縄)	47	五段
森 俊樹	(神奈川)	49	五段	手塚 則明	(滋賀)	51	五段
重見 英男	(大分)	52	五段	坂田 勝巳	(神奈川)	53	五段
中井 哲慈	(東京)	53	五段	福田 和弘	(大阪)	53	五段
尾辻 瑞人	(東京)	54	五段	森 能史	(大阪)	55	五段
大西 司	(東京)	56	五段	林 明人	(茨城)	57	五段
由井 克之	(長崎)	58	五段	伊佐地 秀司	(三重)	61	五段
西本 知二	(京都)	63	五段	小池 光正	(愛知)	65	五段
藤本 牧生	(愛知)	65	五段	芦田 光	(京都)	66	五段
松原 基夫	(滋賀)	66	五段	神部 清彦	(神奈川)	67	五段
坂井 誠	(埼玉)	67	五段				



【団体戦メンバー表】

北海道・岩手・福島			
先鋒	吉田 武史	36	6段
次鋒	越智 小枝	40	6段
中堅	川上 格	44	5段
副将	菅 義行	59	7段
大将	池澤 清豪	61	7段

宮城			
先鋒	宮崎 敦史	49	2段
次鋒	石橋 賢太郎	50	2段
中堅	佐藤 幸一郎	56	6段
副将	櫻井 聰	60	5段
大将	今村 幹雄	65	7段

新潟・茨城・沖縄			
先鋒	成田 雅	46	4段
次鋒	大岩 真	50	7段
中堅	林 明人	57	5段
副将	荻荘 則幸	58	7段
大将	樋島 悅蔵	68	7段

埼玉・神奈川			
先鋒	新井 克佳	50	7段
次鋒	坂田 勝巳	53	5段
中堅	兵藤 透	56	3段
副将	佐久間 洋	58	6段
大将	坂井 誠	67	5段

千葉			
先鋒	宮崎 真和	46	5段
次鋒	古本 敬明	48	4段
中堅	新藤 寛	54	6段
副将	福島 孝幸	54	7段
大将	守 正英	72	7段

東京 1			
先鋒	池 真実	27	3段
次鋒	塚原 清彰	41	5段
中堅	大西 司	56	5段
副将	荻原 幸彦	58	7段
大将	篠原 義智	63	7段

東京 2			
先鋒	伊藤 伸	40	6段
次鋒	志村 信一郎	45	4段
中堅	高塚 洋二	56	6段
副将	朝日 茂樹	62	7段
大将	佐野 順次郎	65	6段

東京 3			
先鋒	木戸 雅人	41	4段
次鋒	武石 浩歎	42	5段
中堅	中井 哲慈	53	5段
副将	弥富 俊太郎	54	7段
大将	宮坂 信之	67	7段

東京 4			
先鋒	田村 洋平	43	5段
次鋒	坂東 道哉	46	4段
中堅	伊藤 保彦	47	5段
副将	阿部 正	52	6段
大将	稻村 征夫	73	7段

東京・長野			
先鋒	森廣 雅人	44	4段
次鋒	尾辻 瑞人	54	5段
中堅	中島 洋介	57	7段
副将	荻原 一郎	58	7段
大将	濱 弘毅	73	7段



神奈川 1			
先鋒	石山 雄一	30	5段
次鋒	森 俊樹	49	5段
中堅	秋山 知子	50	6段
副将	宮下 薫	66	4段
大将	野見山 延	70	7段

神奈川 2			
先鋒	根本 隆章	34	5段
次鋒	奥山 健一	46	5段
中堅	大畠 敏保	60	6段
副将	清水 浩二	62	7段
大将	神部 清彦	67	5段

愛知・静岡・福井・三重・鳥取			
先鋒	榎間 勝利	50	4段
次鋒	笠松 紀雄	59	7段
中堅	堀江 貴	59	7段
副将	片山 寛次	61	3段
大将	伊佐地 秀司	61	5段

愛知			
先鋒	増田 健太郎	41	6段
次鋒	中屋敷 典久	47	4段
中堅	小池 光正	65	5段
副将	藤本 牧生	65	5段
大将	新田 正廣	66	4段

滋賀			
先鋒	今村 拓也	36	4段
次鋒	石川 原	45	5段
中堅	清水 智治	47	4段
副将	手塚 則明	51	5段
大将	松原 基夫	66	5段

京都 1			
先鋒	平塚 将太郎	26	5段
次鋒	松井 大輔	33	4段
中堅	渡辺 正	46	4段
副将	石井 靖隆	52	7段
大将	大菅 克知	56	7段

京都 2			
先鋒	中村 慶	28	3段
次鋒	喜場 崇至	34	4段
中堅	横関 弘一	36	初段
副将	栗林 正明	39	3段
大将	李 哲柱	58	5段

京都 3			
先鋒	根来 宏光	39	5段
次鋒	藤原 広臨	42	7段
中堅	牛込 秀隆	45	3段
副将	武内 章英	47	6段
大将	芦田 光	66	5段

大阪 1			
先鋒	福田 和弘	53	5段
次鋒	森 能史	55	5段
中堅	柴田 和弥	57	7段
副将	倉田 博幸	60	7段
大将	西本 孝	66	7段

大阪 2			
先鋒	谷上 博信	54	3段
次鋒	倉都 滋之	54	7段
中堅	宮坂 昌之	67	7段
副将	谷岡 恒雄	69	7段
大将	長野 拓三	73	7段



兵庫			
先鋒	浦出 剛史	33	6段
次鋒	久保田 暢人	39	6段
中堅	和田 哲成	51	6段
副将	浦出 雅裕	67	7段
大将	中島 進	68	7段

四国			
先鋒	福本 卓夫	51	6段
次鋒	石濱 英暢	53	7段
中堅	枝重 恭一	65	7段
副将	谷木 利勝	66	7段
大将	伊藤 保憲	73	7段

兵庫・岡山・福岡・大分			
先鋒	吉田 純	43	6段
次鋒	池永 剛久	50	3段
中堅	重見 英男	52	5段
副将	福重 哲志	60	6段
大将	山本 晋一郎	73	7段

福岡			
先鋒	天野 一志	40	5段
次鋒	野見山 崇	44	6段
中堅	服巻 誠	50	5段
副将	桶田 俊光	65	7段
大将	日高 久光	66	7段

長崎			
先鋒	阿保 貴章	43	4段
次鋒	鬼塚 正成	49	6段
中堅	牟田 幹久	55	6段
副将	由井 克之	58	5段
大将	萬木 信人	66	7段

熊本・鹿児島・沖縄			
先鋒	紙屋 康之	43	5段
次鋒	甲斐 豊	53	6段
中堅	箕田 修治	59	5段
副将	諸木 浩一	60	6段
大将	奥島 憲彦	60	7段

沖縄			
先鋒	小林 繁貴	29	初段
次鋒	玉城 啓太	32	3段
中堅	名嘉 圭代	42	4段
副将	小林 之直	47	5段
大将	永山 盛隆	58	6段

補充選手			
	石破 博	38	3段
	鏡山 博行	79	7段
	佐藤 義典	79	7段
	飯塚 幹夫	87	7段



【団体戦予選リーグ】

【第一試合会場】

第一ブロック
① 北・岩・福
② 東京・長野
③ 大阪 1

第二ブロック
① 千葉
② 愛知
③ 兵・岡・福・大

第三ブロック
① 東京 4
② 京都 3
③ 沖縄

【第二試合会場】

第四ブロック
① 宮城
② 神奈川 1
③ 大阪 2

第五ブロック
① 東京 1
② 滋賀
③ 福岡

【第三試合会場】

第六ブロック
① 新潟・茨城・沖縄
② 神奈川 2
③ 兵庫

第七ブロック
① 東京 2
② 京都 1
③ 長崎

【第四試合会場】

第八ブロック
① 埼玉・神奈川
② 愛・静・福・三・鳥
③ 四国

第九ブロック
① 東京 3
② 京都 2
③ 熊・鹿・沖

【試合進行順番】

第一試合

① – ②

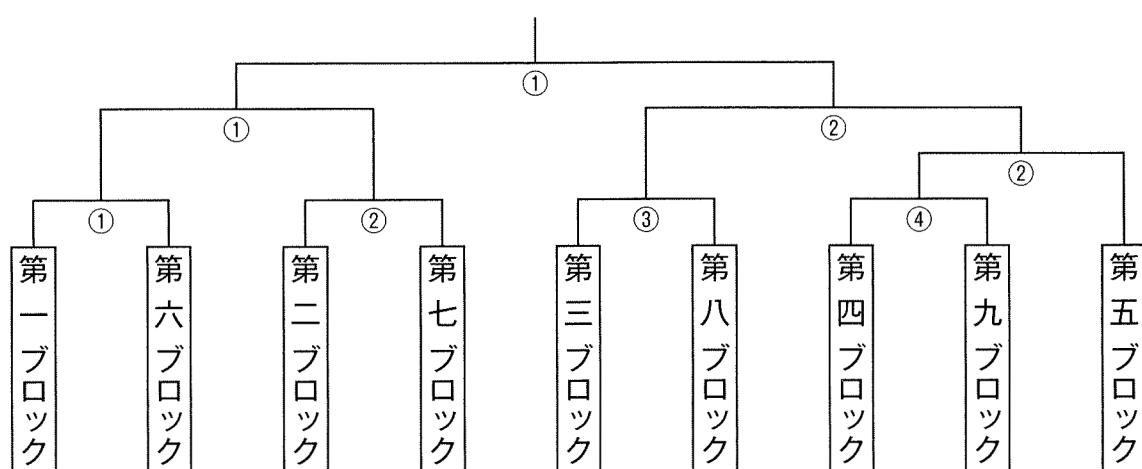
第二試合

② – ③

第三試合

① – ③

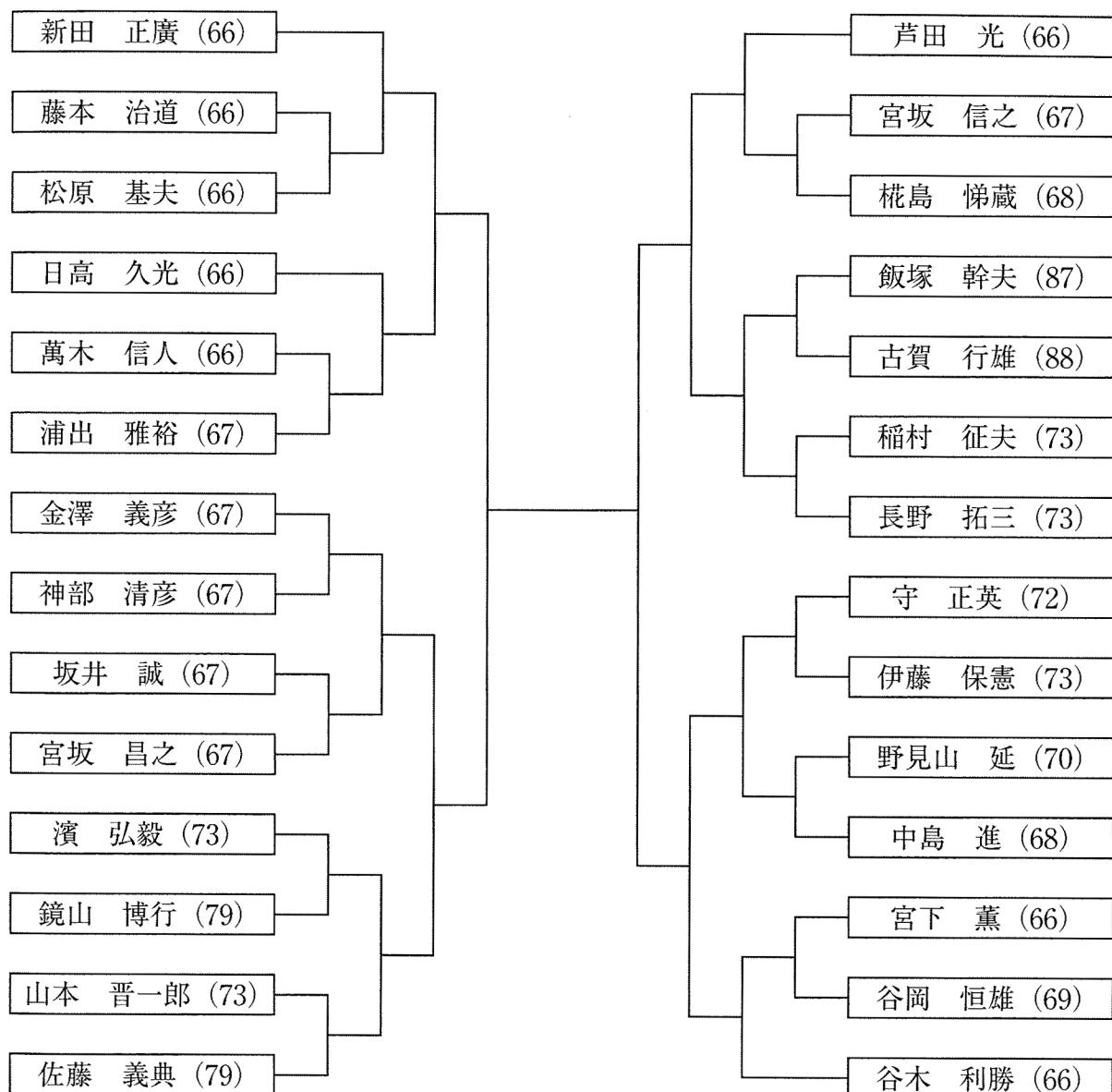
【決勝トーナメント】(下記①~④の数字は試合場)





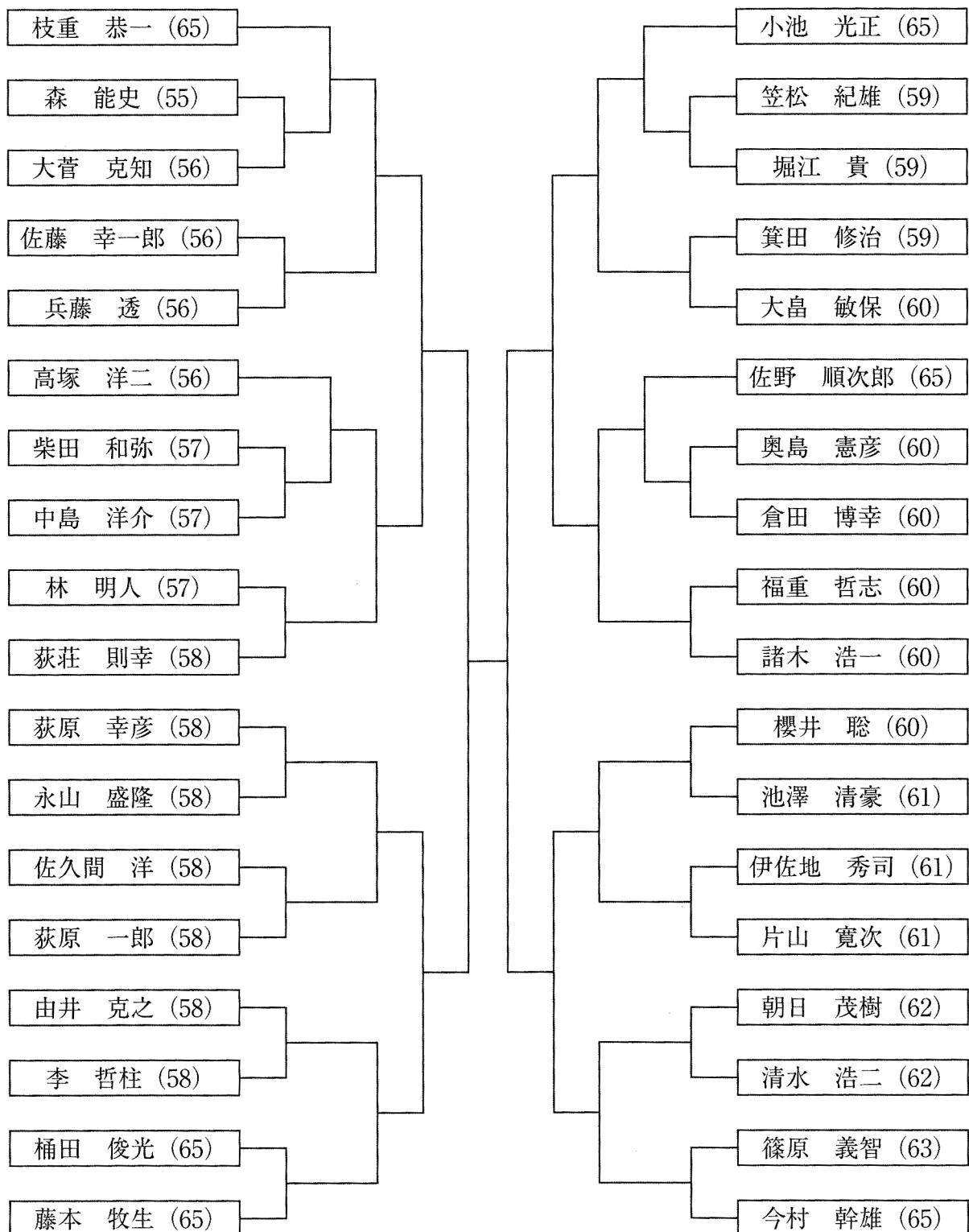
年代別個人戦

第一試合場 【年代別トーナメント (66 ~ 88 歳)】



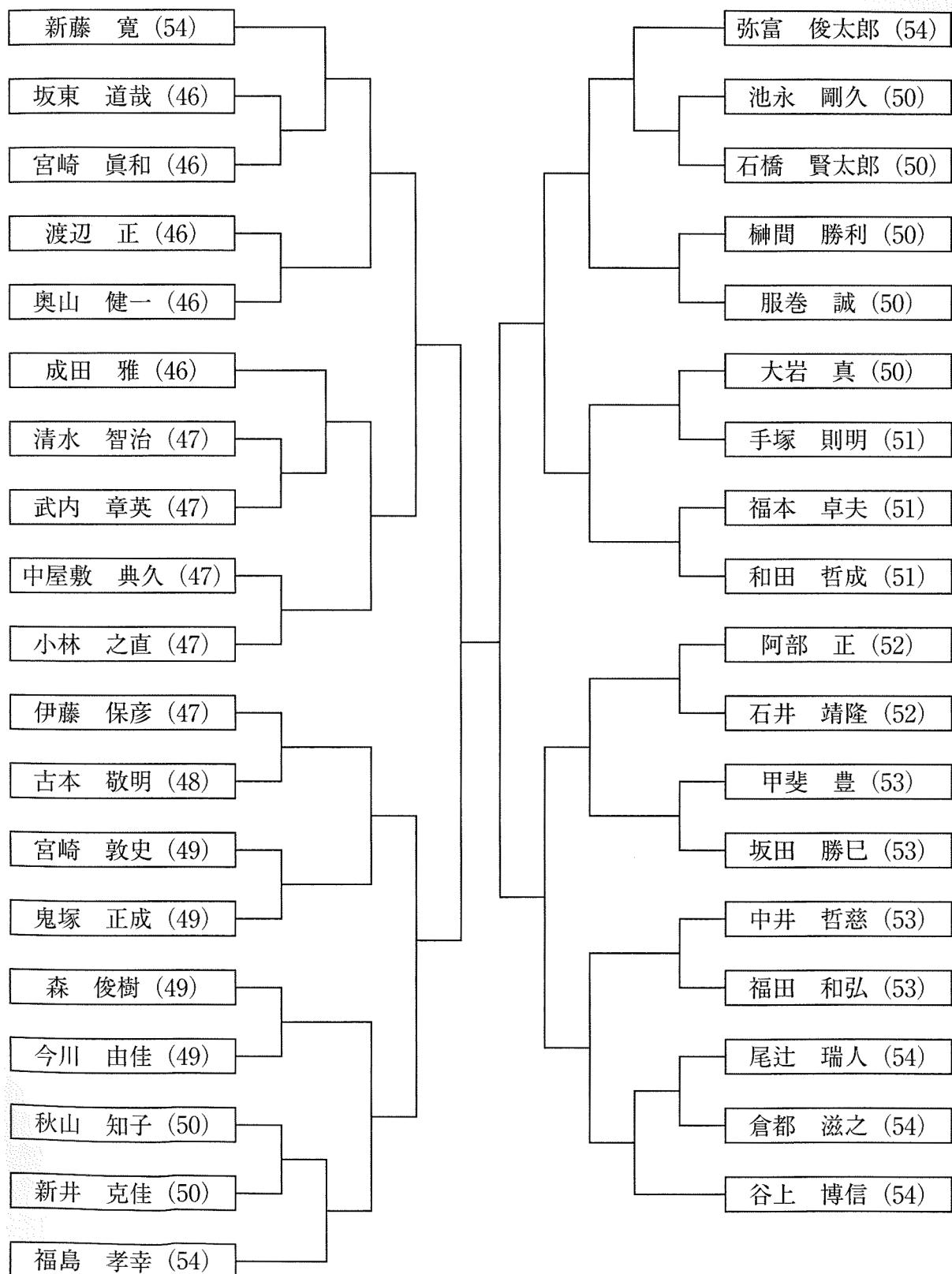


第二試合場 【年代別トーナメント（55～65歳）】



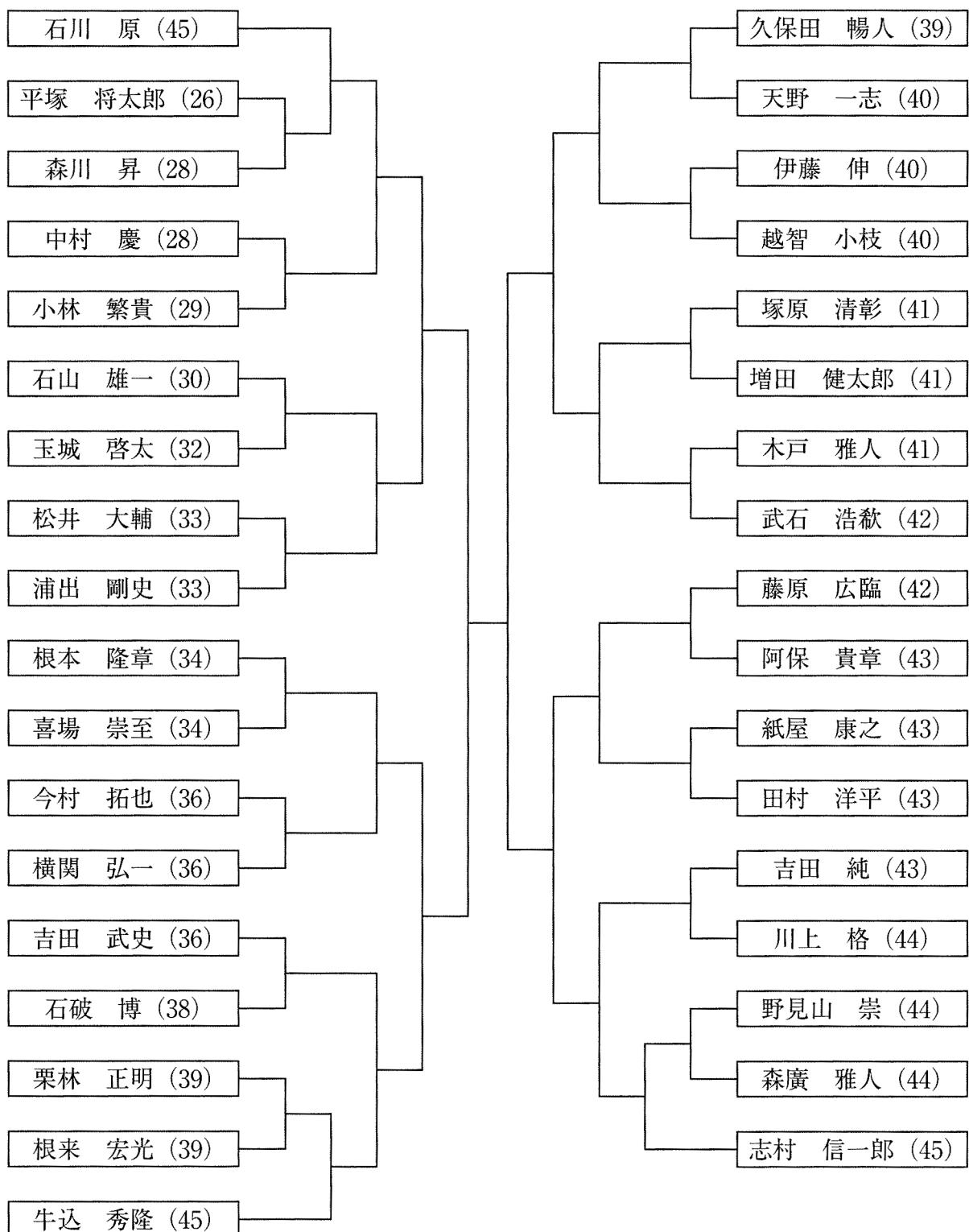


第三試合場 【年代別トーナメント (46 ~ 54歳)】





第四試合場【年代別トーナメント（26～45歳）】





回 次	開催年月日	開催地	備 考
第30回 *	平成7年4月9日	愛知（江南市民会館）	第24回・日本医学会総会 大会会長・村瀬守男 運営委員長・吉尾 豪
第31回	平成8年9月22日	沖縄（沖縄県立武道館）	大会会長・永山 薫 運営委員長・永山盛隆
第32回	平成9年9月14日	岩手（岩手県営武道館）	大会会長・中村好和 実行委員長・小西 一
第33回	平成10年11月21・22日	鹿児島（鹿児島アリーナ）	大会会長・楠元忠雄 実行委員長・諸木浩一
第34回 *	平成11年4月3・4日	東京（東京医科大学記念会館）	第25回日本医学会総会 大会会長・山崎 衛 運営委員長・伊藤元明
第35回	平成12年4月15・16日	広島（広島県立総合体育館武道場）	大会会長・十河勝正 大会副会長・瀬尾憲司 運営委員長・渋川哲治
第36回	平成13年4月14・15日	熊本（熊本大学総合体育館）	大会会長・笠原 登 事務局長・由布雅夫
第37回	平成14年9月14・15日	札幌（札幌市総合体育館きたえーる）	大会会長・道下俊一 運営委員長
第38回 *	平成15年4月5・6日	福岡（宗像ユリックス）	第26回日本医学会総会 大会会長・加野資典
第39回	平成16年4月17・18日	大阪（大阪コスモスクエア国際交流センター）	大会会長・鏡山博行 運営委員長・長野拓三
第40回	平成17年4月16・17日	大分	大会会長・広瀬信道 運営委員長・河野信一
第41回	平成18年4月15・16日	神奈川（相模女子大体育館）	大会会長・野見山延 運営委員長
第42回 *	平成19年4月7・8日	大阪（豊中市立体育館）	第27回日本医学会総会 大会会長・宮坂昌之 事務局長・西本 孝
第43回	平成20年4月19・20日	兵庫（兵庫県立武道館）	大会会長・松井英互 運営委員長・佐藤義典
第44回	平成21年5月23・24日	千葉（千葉ポートアリーナ）	大会会長・遠山富也 実行委員長・西嶋 浩 事務局長・長尾啓一
第45回	平成22年4月10・11日	三重（県営サンアリーナ）	大会会長・中山尚夫
第46回 *	平成23年4月9・10日	東京（東京医科大学記念会館）	大会会長・伊藤元明 運営委員長・荻原幸彦
第47回	平成24年4月7・8日	鳥取（鳥取県立武道館）	大会会長・飯塚幹夫 実行委員長・湯村正仁
第48回	平成25年6月22・23日	仙台（仙台市青葉体育館）	大会会長・今村幹雄 実行委員長・渡邊哲子
第49回	平成26年4月5・6日	長崎（長崎県立総合体育館）	大会会長・萬木信人 実行委員長・吉田善春
第50回 *	平成27年4月11・12日	京都（京都市武道センター）	第29回日本医学会総会 大会会長・吉村了勇 実行委員長・西本知二

* = 日本医学会総会と同時開催



広告寄付

寄付謝辞

竹村 信行	JR東京総合病院 消化器外科
山本 康正	京都桂病院 脳神経内科
本庄 秀雄	蘇生会総合病院
近藤 正樹	京都府立医大 神経内科
原 洋子	原皮フ科
藤原 葉一郎	京都市立病院 産婦人科
西山 勝彦	摂津医誠会病院
計良 夏哉	公立南丹病院 循環器内科
鈴山 博司	おおはら雅の郷